

# 町小だより

令和元年  
12月23日  
No. 643  
御免町小学校

## 失敗の後の分かれ道

校長 藤井 聡

多くの『学び』を得た2学期が終了し、子どもたちが楽しみにしている年末を迎えます。皆様には、様々なところで、御支援、御協力を賜りました。心より感謝申し上げます。ありがとうございました。新しい年も皆様にとって良い年になりますようお願い申し上げます。来年もまた、よろしく願い申し上げます。

人は誰でも失敗をします。一生懸命にやっても失敗はあります。だから、全てを完璧にこなせる人などいないのです。まして、子どもなら、なおさらのことです。

悪意があつてのことは別ですが、うっかりミスをしてしまった時に、どのような対応をするかは、人間性の問われるところです。つまり、失敗をしたときの対応の仕方を教えていく（考えさせていく）ことはその子の将来にかかわるとても大切な教育なのです。

これは子どもだけに限ったことではありませんが、失敗を注意されたり、叱られたりした時に、素直に謝る子と言い訳が先行する子がいます。私は、素直に謝った子には、一連の指導が終わった後で、謝ったことをほめます。そして、それは社会で生きていく上でとても大切なことなので、忘れないでほしいと話します。逆に、言い訳が先行したり、自分の失敗を人のせいにした子や、そのことを取り上げて叱ります。時には、もともとの失敗よりも強く叱ることもあります。

学校は様々な成功や失敗の経験を繰り返しながら生き方を学ぶ大切な場です。したがって、叱られることそのものが大切な『学び』の機会なのです。叱られたことがその子を否定することにはなっていないのです。変な言い方かもしれませんが、子どもたちには安心して叱られてほしいと思っています。素直に反省し、こういうことをしてはいけないのだなということが分かればいいのです。ところが、言い訳が先行し、自分自身の非を認められない場合には、人としてのゆとりのなさや心の狭さを感じてしまいます。

このように、同じ失敗をしても、その後の言動によってその人の評価は大きく変わってきます。人とかわりながら社会の中で生きていく上では、きわめて重要なことです。これを小さいころから教えていきたいのです。

人を責めるか否かについても同様で、人間性が問われるところです。失敗したことをいつまでも責めていても何も変わりません。相手の立場に立って考え、どこかで「許す」ということが必要です。人を許すことができるということも心の豊かさの表れだと思います。人を許し、よりよい人間関係を築いていこうとする姿勢は、いずれ自分にも返ってきます。これも小さいころから教えていきたい大切な事柄です。

以上のように、「失敗」の後でどのような行動をとるかが重要だということを認識していただければと思います。そして、お子さんに上手に語りかけていただければと思います。